

# 国内観測史上最大 M9.0 未曾有の大災害「東日本大震災」

## JA秋田しんせい 緊急対策本部を設置

3月11日の午後2時46分頃、三陸沖を震源とする巨大地震が発生。震源の深さは約10<sup>キロ</sup>、地震の規模を示すマグニチュードは、国内観測史上最大となる9.0を記録しました。(由利本荘市とにかほ市では震度5強を記録)

JA秋田しんせいは翌3月12日、阿部和雄組合長を本部長とする「東北地方太平洋沖地震緊急対策本部」をJA本店に設置。組合員と地域住民の生活を支えるとともに、発生被害に対して情報収集を行い、迅速に協議しながら業務上の対策にあたりました。

震災の影響は、当JA管内のガソリンや食品などにも影響しました。組合員・地域住民の皆様には大変、ご迷惑をお掛けしましたことに、心よりお詫び申し上げます。



▲ガソリンスタンドも給油量を制限して営業を続けました(本荘中央SS 3/14)



▲JAの支店・事業所では、節電のため蛍光灯を消して業務を行っています(本店 企画管理部 3/15)



▲流通体制も影響し、一部商品が品切れとなりました(Aコープ子吉店 3/14)

## JA秋田しんせいグループ 被災地へ救援物資を送る

JAと(株)ジェイエイ秋田しんせいサービスは、第1弾の救援物資として3月17日に、ふくちゃんリングジュースを1,000本、飲料水2,500本、カップ麺720個をJA秋田中央会を通じて地震の被災地(岩手県)へ。22日には(株)ジェイエイゆり葬祭センターが、ひとめぼれの精米100kgを送りました。また、3月28日は独自支援として、JAがひとめぼれの精米1,000kgと同サービスが、マスクや紙オムツなどの生活用品、食品、飲料水などを岩手県と宮城県へ送りました。



▲写真左から(株)ジェイエイ秋田しんせいサービスの鈴木社長、JAの阿部組合長と島山専務(JA本店 3/17)




▲米を車に積み込む(株)ジェイエイゆり葬祭センターの社員(葬祭センター本店 3/22)



▲救援物資の第2弾として米と生活用品などを送りました(JA本店 3/28)

※災害名については、マスコミ各社で違っておりますが、JA広報誌「wind's (ウインズ)」では、日本農業新聞が3/18から表記する「東日本大震災」を使用しました。

# 東日本大震災復興支援活動

がんばろう東北！助け合おう日本   
 ～心をひとつに広がる支援の輪～

## 今回の誌面

### 1 救援物資を送る

J Aと(株)ジェイエイ秋田しんせいサービスは、第2弾となる米や生活用品などの救援物資を東日本大震災の被災地へ送りました。



### 2 募金活動を展開

全国の組合員やJ Aグループ役職員は、東日本大震災の救援募金活動を展開。J A秋田しんせいグループも募金活動を実施しました。

### 3 被災地で炊き出し

J Aは、J A比内地鶏生産部会や(株)秋田ニューバイオファームらと共に宮城県の南三陸町を訪れ、「きりたんぼ鍋」の炊き出しを行いました。



### 4 避難者に救援米

J Aグループ秋田は、秋田県へ避難している震災避難者に救援米の提供を決定。J Aはこれを受け、2市を通じて県産米を送りました。



# 東日本大震災復興支援活動 がんばろう東北！ 助け合おう日本 ～心をひとつに広がる支援の輪～



## 被災地へ向け ①

### JA秋田しんせいサービス 岩手・宮城へ米・日用品など2トンの救援物資を送る

JA秋田しんせいと(株)ジェイエイ秋田しんせいサービスは3月28日、東日本大震災の被災地へ米などの食料品や生活用品を送りました。被災地の避難所では、衛生面の問題や食料・生活物資が不足している状況を踏まえ、同JAと同社は独自の支援策として、救援物資の輸送を決定。岩手県にJA産の土づくり実証米「ひとめぼれ」を1ト、宮城県にはマスクや紙おむつ、トイレットペーパーなどの生活用品と清涼飲料水を送ることを決めました。

当日は、JA本店で職員が物資を積み込み、現地へ出発するトラックを見送りました。物資は、両県のJA中央会が受け入れ窓口となり、被災者に送られます。

JAの阿部和雄組合長は、「連日マスクミを通じて大きな被害状



▲物資を積んだトラックを見送るJA役職員  
(由利本荘市荒町のJA本店で 3/28)

況が伝わってくる。決して人ごとではない。同じ痛みを分かち合い、救いの手を差し伸べるのは我々の責務だと考える。今後も私たちの思いが少しでも届くよう、募金活動などを通じて被災地への支援を続けていきたい。」と話しました。同JAと同社による救援物資は今回が2回目。3月17日には、JA秋田中央会を通じて飲料水やカップ麺などの食料品も送っています。

(企画課 伊藤昌志)

## 緊急救援募金活動を展開

### ②

### JAグループ秋田

東日本大震災による被災地の復興・復興に際し、これまでにない巨額の費用が必要となるため、この度、全国の組合員やJAグループ役員による「緊急救援募金活動」を展開しました。

JA秋田しんせいグループでは、役員・社員・JA女性部や青年部などの組合員組織を対象に3月22日から4月8日まで募金活動を行い、約26万円の募金が集まりました。

**支え合う気持ち  
大きな力に**

募金はJA全中で取りまとめ、被害額に応じて被災県災害対策本部へ送られます。

この活動の結果は、日本農業新聞などを通じて報告する予定です。

(企画課 佐藤哲裕)

### JAグループ秋田 手作りカレーで支援

JAグループ秋田は4月1日から2週間、岩手県の大槌町と釜石市でカレーライスの炊き出しを行いました。1日～7日は大槌町、8日～14日は釜石市の被災者に毎日300～360食分のカレーライスを提供しました。



▲避難所でカレーライスの炊き出しを行う支援スタッフ  
(写真提供：JA秋田中央会)

# 震災被災地で炊き出し

## 3 宮城県本吉郡南三陸町で「きりたんぼ鍋」を提供

JA秋田しんせい比内地鶏生産部会と(株)秋田ニューバイオフィームが協力

東日本大震災の被災地を支援しようと、JAと(株)秋田ニューバイオフィームは4月4日、宮城県南三陸町入谷地区の避難所2カ所を訪れ、夕食として「きりたんぼ鍋」の炊き出しを行いました。当日は、食材を提供したJA比内地鶏生産部会や由利本荘市商工会青年部もスタッフとして参加しました。(企画課 佐藤哲裕)



▲温かく具だくさんのきりたんぼ鍋が提供された(南三陸町立入谷小学校で 4/4)



▲炊き出しの準備をするスタッフ(南三陸町役場入谷公民館で 4/4)

甚大な津波の被害を受けた同町では、水道や電気などのライフラインが途絶えたまま、被災者は厳しい避難所生活を強いられています。JAと同社は、「温かい食事を食べて元気を出してほしい」という思いから被災地での炊き出しを行うべく、秋田県からの紹介を受けて同町に向かいました。

避難所の南三陸町立入谷小学校に到着した13名のスタッフは、被災地から要望があったハンドクリームや使い捨てカイロなどを支援助物資として提供。同じく避難所となっている同地区の公民館と2班に分かれて炊き出しの準備を行いました。

きりたんぼや比内地鶏肉、野菜、きのこ類など約500食分の食材は、JAや同部会、同社らが準備。避難所2カ所で350食分のきりたんぼ鍋を作り、被災者や現地で支援を行うスタッフら260名に炊き出しを行いました。また、残った食材は全て支援助物資として現地に提供しました。

被災者からは、「こんなに具だくさんで美味しい鍋は初めて。」「体も心も温まった。ありがとう。」「と感謝の言葉が寄せられました。同校で炊き出しを行ったJA比内

地鶏生産部会の佐藤民雄部会長は、「被災者にとっては、たった一度の食事だが、その一度でも温かいものを食べてほしかった。これからも助け合いの精神を風化させずに支援を続けていきたい。」と被災者への思いを語りました。



▲炊き出しをする佐藤民雄部会長(左)と(株)秋田ニューバイオフィームの佐藤和則部長(右)

## JAグループ秋田 本県への避難者へ救援米の支援決定

### 4 JA秋田しんせい 由利本荘市にかほ市の避難者へ2カ月間

たくさん食べて元気を出して

3月22日の全県JA組合長会議で、東日本大震災で被災し、秋田県へ避難している避難者に救援米の支援を行うことが決定しました。これを受け、JA秋田しんせいは4月8日、阿部和雄組合長と畠山勝一専務が由利本荘市とにかほ市を訪れ、両市長に救援米を手渡しました。(由利本荘市にかほ市の避難者259名へ県産米を約1.2ト)

4月1日現在、由利本荘市では59世帯160名、にかほ市では34世帯99名が、福島県などから避難しています。

JAでは、4月と5月の当面2カ月間、救援米として月に一人当たり5kgを両市を通じて避難者へ送ることにしています。

(企画課 伊藤昌志)



▲由利本荘市の長谷部市長(左)へ救援米を手渡す阿部組合長



▲にかほ市の横山市長(左)へ救援米を手渡す阿部組合長

ふくちゃんポイントカード

情報  
Information

支店いざなぎ JA秋田しんせい 企画課  
(TEL)0184-27-1661 (HP)FLS)http://www.akita-shinsei.or.jp/

POINT  
1

# がんばろう東北 「復興支援ポイント」を新設!



## ① ポイントに「愛」を込めて…

東日本大震災の被災地を支援するため、ふくちゃんポイントカードに「がんばろう東北!復興支援ポイント」を新設しました。カード会員の皆様の貯まったポイントを義援金として受け付けし、被災地へ送ります。

「ほんの少しいいのです。」あなたの愛をポイントに込めて、被災地に届けましょう!

## ② 1ポイントから使用可能

貯まったポイントは、1ポイントから使用可能です。JA各支店・事業所で、申込書にご記入いただき、店頭備え付けの募金箱に投函してください。【受付期間】平成23年6月30日まで

JA秋田しんせい 検索

<http://www.akita-shinsei.or.jp/>

JAホームページからも申込書がダウンロードできます!



新着情報欄をチェック!



## 東日本震災遺児 支援定期「絆」

HIGASHINIHONSHINSAIJI SHIENTEIKI [KIZUNA]

社会貢献型定期貯金 平成23年7月1日～平成24年2月29日

JA秋田しんせい

### 2年間に亘り、預入残高の0.05%を震災遺児を支援する団体の「あしなが育英会」に寄付いたします。

※お客様のご負担はございません。

手をつなごう。  
強く、堅く。

#### 震災遺児を応援しましょう!

- お申込みいただけるのは個人のお客様です。
- 対象となるのは新規にお預入れいただいた2年もの定期貯金（自動継続）です。
- お預け入れいただいた定期貯金の平成24年2月29日現在の残高および平成25年2月28日現在の残高の0.05%相当額を当JAが「あしなが育英会」に寄付します。（2年に亘り寄付を行います。）※お客様のご負担はありません。
- 金利はご契約時の店頭金利となります。
- ご継続の際はその時点での店頭金利が適用されます。
- やむをえず中途解約される場合は、当JA所定の中途解約利率が適用されます。
- 商品内容については当JAのホームページ、または店頭へ備え付けの商品概要説明書をご覧ください。



子どもたちの笑顔のために  
つながれば  
大きな力に

〒015-8538 秋田県由利本荘市荒町字榎台1-1  
TEL 0184-27-1665 FAX 0184-27-1666  
ホームページアドレス <http://www.akita-shinsei.or.jp/>

## ネットワーク会員 被災地で炊き出し

### 青年部

東日本大震災からちょうど3か月目となった6月11日、由利本荘青年会議所や由利本荘市・にかほ市商工会青年部・女性部、JA秋田しんせい青年部らでつくる「わがまちネットワーク」が、津波で大きな被害を受けた岩手県大槌町で炊き出し活動を行いました。

岩手県立大槌高校で行った炊き出し活動には、同ネットワークの会員27名が参加し、焼きそばやうどん、各200食分を調理。

また、JAが提供したアスパラガスをゆで、被災者や被災地の支援を行うスタッフら約300名に昼食として提供しました。

会員は、昼食を受け取る被災者に励ましの声を掛け、早期の復興を願いました。



▲会員が直接アスパラガスを手渡しました

# ふくちゃん ポイントカード情報



## 復興支援ポイントに 335,194P の"愛"が届きました!

ふくちゃんポイントカード会員の皆様に貯まったポイントを義援金として東日本大震災の被災地へ送る「がんばろう東北!復興支援ポイント」は、6月30日(木)をもって締切りとさせていただきます。

会員の皆様から寄せられたポイントは、**335,194ポイント!**(1ポイント=1円)

このポイントは、9月3日(土)に開催するJAまつり2011で行う予定のチャリティーバザーの収益金と一緒に愛を込めて被災地にお送り致します。

**ご協力ありがとうございました。**

## JAと県らが炊き出し隊を結成 岩手県大船渡市で支援活動

### 復興支援

JAと秋田県由利地域振興局、JA組合員らで構成する「鳥海もへの会」は8月6日、復興支援炊き出し隊を結成し、25名の隊員が岩手県大船渡市で炊き出し支援活動を行いました。

同市立大船渡中学校の敷地内にある永沢仮設住宅で行った炊き出しでは、隊員が手際よく400人分の調理を開始。「JA管内産のアスパラガス入り焼きそば」と「土づくり実証米ひとめぼれ」で作ったおにぎりを昼食として、手渡しました。ほかにも秋田鳥海りんどうや菊、花火を贈り、「鳥海もへの会」は、約250食分のかき氷を



▲仮設住宅で暮らす住民へ焼きそばなどを提供しました



▲冷たいかき氷を食べて満面の笑顔！

提供して、子どもたちを喜ばせました。仮設住宅で生活する住民からは、「美味しい焼きそばやたくさんの支援物資をいただき、とてもありがたい」と隊員に対し、感謝の言葉が寄せられました。

## 岩手県大船渡市で復興支援 側溝の泥上げで詰まりを解消

### 復興支援

秋田県由利地域振興局と由利本荘市社会福祉協議会、JA秋田しんせい、秋田県立大学・秋田県立仁賀保高校の学生ら28名は9月9日、東日本大震災の津波により、大きな被害を受けた岩手県大船渡市で、側溝の泥上げなどのボランティア活動をを行いました。

大船渡港から約1<sup>1</sup>/<sub>2</sub>北西の交差点から作業をスタートし、約100戸の側溝の詰まりを解消しました。JAからは、4名が支援活動に参加。泥や砂利のほかに家の壁や瓦、鍋などの生活用品を側溝から引き上げました。

この活動は、県由利地域振興局



▲生活用品などが詰まり作業は難航しました



▲高校生と協力して作業

が主管する「由利地域震災対応地域活動ネットワーク」が行う事業の一環。大船渡市で平日のボランティアが少ない現状を受け、支援を行ったものです。同ネットワークでは、今後も支援活動を行っていく計画です。

# 大船渡市で2回目の復興支援 泥・砂利などを側溝から引き上げ

## 復興支援

秋田県由利地域振興局と由利本荘市社会福祉協議会、JA秋田しんせい、秋田県立仁賀保高校などを構成員とする「由利地域震災対応地域活動ネットワーク」は10月15日、復興支援ボランティアを岩手県大船渡市で行いました。

同市での支援活動は、今回が2回目。26名の参加者が、前回に引き続き、津波により土や砂利などが詰まった側溝の泥上げを行ったほか、草刈りやガレキの撤去などを行いました。

今回、JAからは5名が支援活動に参加。大船渡港に近い民家跡地や駅前、商店街で活動しました。作業は、ネットワーク会員と協力

して、午前・午後と約200口の側溝から泥や砂利のほかに家の壁や瓦などを引き上げ、排水できるように詰まりを解消しました。同ネットワークでは、今後も支援活動を行っていく予定です。



▲泥などが無くなり排水が可能となりました

▲JR大船渡駅近くの側溝の詰まりを解消



# 「絆」3.11を忘れない

みんなの笑顔をとりもどすまで  
私たちは支援しつづけます。

## 東日本大震災復興支援定期貯金

取扱期間終了時に本定期貯金の総額の0.01%相当を  
東日本大震災義援金として「秋田県共同募金会」に寄付します。

お取扱期間 平成24年5月1日  
平成24年9月28日

(お客様の負担はありません)

### 第1弾

#### 3年定期貯金

商品名: 東日本大震災復興支援3年定期

窓口扱い

年0.20%【税引後 年0.160%】

ATM扱い

年0.22%【税引後 年0.176%】

#### 5年定期貯金

商品名: 東日本大震災復興支援5年定期

窓口扱い

年0.32%【税引後 年0.256%】

ATM扱い

年0.34%【税引後 年0.272%】

※ATMでのお取扱いは、個人のお客様のみとなります。

お取扱期間(平成24年5月1日～平成24年9月28日)  
ただし、取扱予定額31億1千万円を達成しだい終了いたします。

第1弾 / 平成24年5月1日～平成24年6月29日

対象となる定期貯金

スーパー定期貯金(自動継続)で新規契約。  
個人のお客様は複利型、団体及び法人のお客様は  
単利型でのお扱いとなります。

ご利用いただける方

個人、団体、法人のお客様。

金利適用期間

初回満期日まで。

※初回満期日以降は自動継続時の店頭表示の利率を当該満期日まで適用致します。  
※やむを得ず中途解約する場合は、当JA所定の中途解約利率を適用致します。  
※「スーパー定期」の商品内容については、当JAのホームページまたは  
店頭にて備付けの商品概要説明書をご覧ください。

取扱予定額 31億1千万円



〒015-8538 秋田県由利本荘市荒町字崎台1-1 TEL 0184-27-1665 FAX 0184-27-1666  
URL <http://www.akita-shinsei.or.jp/> JA秋田しんせい 検索

詳しくは、お気軽にお近くの支店金融窓口 または「ふれあいパートナー」へお問い合わせ下さい。